

八田與一と農業開発で留意すべきこと

1. 八田與一の農業開発

八田與一は、台湾が日本の統治下にあった時代に、台湾総督府の土木部で土木技師として働いていた人物である。彼は台湾の不毛の地、嘉南平野に鳥山頭ダムを建設し、台湾の人々の暮らしを向上させたとして、台湾人から「恩人」として崇拝されている。以下、八田與一の功績を見ていこう。

(1)鳥山頭ダムの建設

嘉南平野は、当時台湾で最も貧しい土地で、降雨が少ない上に、年間雨量のほとんどが雨季に集中していた。また、平坦な土地で配水も悪かったため、洪水や旱魃が繰り返されていた。このような状況を憂い、八田與一はこの地にダムを建設することを決意したのである。

八田與一の構想は壮大だった。このような状況を改善するために、当時として東洋一のダムの建設を計画した。当然それには膨大な工事費がかかるため、容易には承認されなかった。しかし彼は諦めず、工事費の半分を地域住民が負担することを条件に、ダムの建設を開始した。当然、地域住民からの反対もあった。ダム建設の費用をなぜ負担しなければならないのか、なぜダムが必要なのか。そのような反対に、八田與一はダムの必要性を説いて回った。また、彼は現場で人一倍働き、その一方で雇用する台湾人の待遇をよくするなど、台湾人を異民族として差別せず地域住民と同じ立場に立ち、住民のことを思いやる姿勢を見せた。そうした八田與一の人柄や熱意によって、地域住民も次第に彼の構想に賛成し、協力するようになったのである。

(2)八田與一の人柄

ここに、八田與一の人柄を表わす二つのエピソードある。一つ目は、関東大震災時のエピソードである。鳥山頭ダムの建設中、関東大震災が起り、日本経済は混乱に陥った。当然、日本の復興が優先され、ダム建設の予算が大幅に削られた。そんな中で八田與一は雇用者の解雇を余儀なくされたが、彼は台湾人ではなく、有能な日本人から解雇していった。これは、有能な日本人は日本に戻っても仕事がある、このダムを実際に使う台湾人が建設に携わるべきだという與一の考え方があってのものだった。二つ目は、ダムの建設現場で爆発事故が起きた際のエピソードである。その事故により、多くの労働者が亡くなった。八田與一は、犠牲者の家を回り、家族ひとりひとりに誠意をもって謝罪した。犠牲者の家族も、八田與一を責めずに、ダムの建設の続行を望んだという。

(3)三年輪作制

八田與一の功績として、鳥山頭ダムの建設のみがクローズされることが多いが、実は彼はこの地域において、もう一つ大きな功績を残している。それは、「三年輪作制」の導入である。彼は、鳥山頭ダムが完成しても、嘉南平野に供給できる水は必要な量の三分の一程度だとわかっていた。そこで、各地域への水の供給を三年に一度だけにし、稲作とサトウキビ栽培と畑作の三種を一年ごとに順番に行う「三年輪作制」を導入したのである。これは、稲作には大量の水が必要であるが、サトウキビはさほど必要でなく、芋などの畑作に至ってはほとんど必要ないため、このようなシステムをとると水不足が解消される、という考えのもとに実施された。

(4)農業開発の結果

八田與一のこのような事業のおかげで、かつては不毛の地であった嘉南平野も、台湾有数の穀倉地域へと変貌した。米やサトウキビの生産量の増加は予想を大幅に上回り、この地域で生産された農作物は、その後日本への一大輸出品となっていった。その上土地の値段も跳ね上がり、莫大な建造費は十分元がとれたという。こうした地域住民の生活向上に繋がっただけではない。嘉南地域の農作物で稼いだ外貨が工業化に転嫁され、その後の台

湾経済の産業高度化を大きく支える結果となった。このように八田與一の農業開発は成功し、地域住民の生活向上はもちろん、台湾全体の経済を支えることになったのである。

2. 農業開発に携わるうえで心がけるべきこと

以上のことを踏まえて、農業開発に携わる上で心がけるべきことについて、以下のように考えた。

まず一つ目は、農業土木のプロフェッショナルであることである。八田與一がこのような事業を大成功のうちに終えたのは、やはり彼の技術と才能によるところが大きい。それがなければこのような構想を得て、実現することはできなかったであろうし、このような巨大事業を任されることもなかったであろう。農業開発に携わる上で、まずは農業土木のプロフェッショナルであろうとする心がけが必須である。

二つ目は、現地住民のことを一番に考えることである。農業開発は、本来的にはそこに住む人々のために行われるものである。よくダム建設時に地域住民と行政の対立などが取り沙汰されるが、それでは本末転倒である。八田與一の成功は、彼の技術によるところが大きいものの、現地住民の理解を得られなければ、ここまでの成功には繋がらなかったであろう。現地住民を一番に考える姿勢がこのような結果に繋がったのである。

そして三つ目は、農業土木に関する知識のみならず、農業全般に関する幅広い知識を持つことである。この農業開発において、八田與一はダムを造るだけにとどまらず、ダムの効果的な使い方まで考え、提示した。これもこの事業の成功を支えた大きな要因である。與一の場合は、彼本人が農業全般に対して深い造詣を持っていたので、このような結果になったが、農業開発に携わる人全員がこうであるとは限らない。そこで、農業開発に携わる際には、農業土木だけではなく、農業開発によって目指すところのものの専門家も加えてよく話し合ったうえで計画を立て、実行に移すべきである。

このように、八田與一の話を通して、農業開発に携わる上で、農業開発を行う上での実際的な技術を身につけることはもちろんのこと、地域住民のことを一番に思いやる気持ちを持つことや、一つの分野に囚われずに、総合的に物事を見て判断していくことを心がけるべきであると感じた。

参考資料

授業で見た VTR

<http://biglife21.com/column/5951/>

http://www.data-max.co.jp/2014/06/27/post_16457_hmg_01.html

<http://ifsa.jp/index.php?kiji-sekai-hattuta.htm>